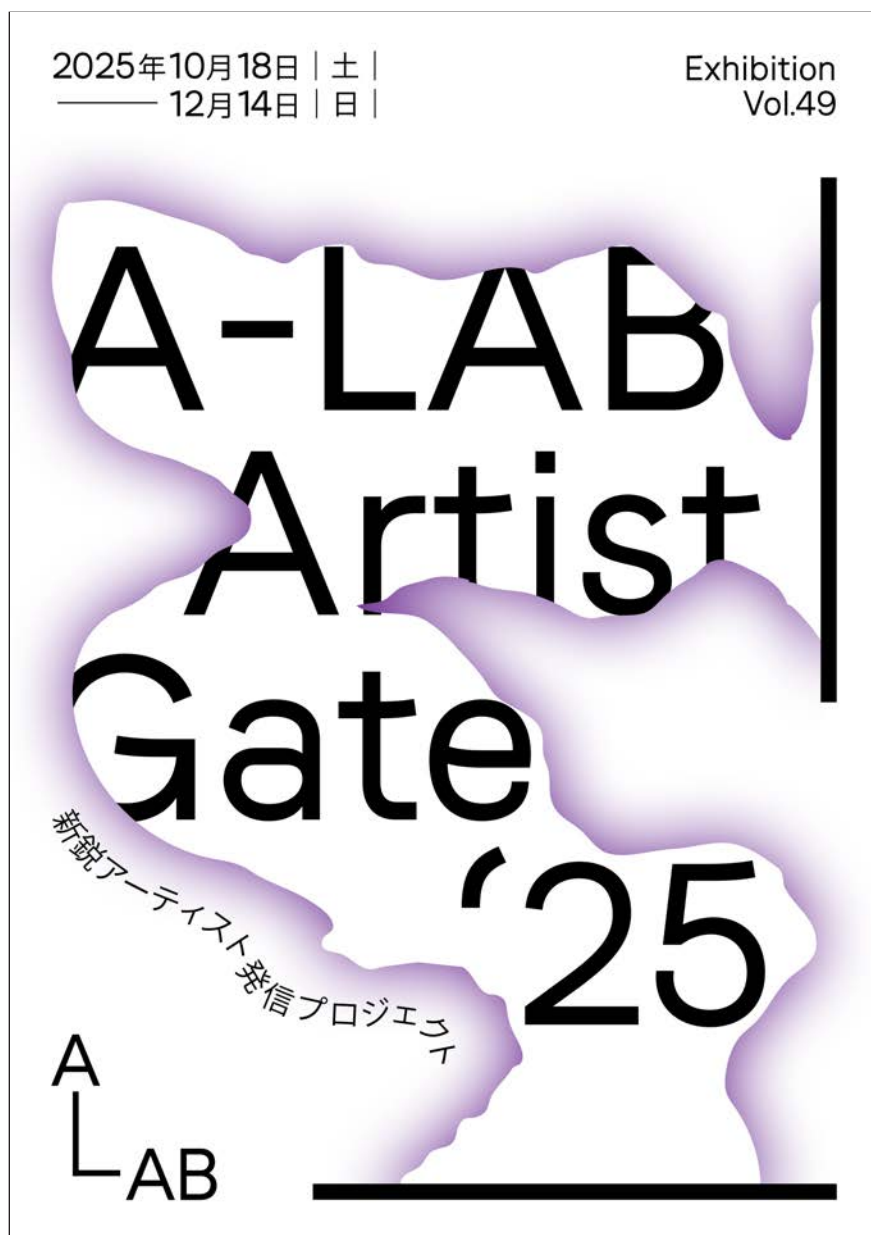




|         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| 会 期     | 2025 年 10 月 18 日 (土)～12 月 14 日 (日) |
| 開 館 時 間 | 午前 10 時～午後 6 時                     |
| 会 場     | A-LAB (えーらぼ) 尼崎市西長洲町 2-33-1        |
| 休 館 日   | 火曜日                                |
| 入 場 料   | 無料                                 |
| 主 催     | 尼崎市                                |

## 開催要旨

尼崎市が運営するアートスペース「A-LAB」で毎年開催している「Artist Gate」。本プロジェクトは今後活躍が期待されているアーティストによるグループ展です。今春、大学・専門学校を卒業か、大学院を修了し、新たなステップに羽ばたこうとしている若手アーティストを紹介します。平成 28(2016)年に初開催して以来、これまで 61 人のアーティストを紹介してきました。10 回目の節目を迎え、選考方法・出展条件を見直し、これまで以上に本展が若手アーティストたちの本格的な作家活動の一歩となり、今後大きく羽ばたいていくことを期待します。

## 選考員

林勇気 / 映像作家 ※ A-Lab Exhibition Vol.12 『あなたが [ ] ほしい i want you [to x]』(2018) 出展作家  
膨大な量の写真をコンピューターに取り込み、切り抜き重ね合わせることでアニメーションを制作。自ら撮影した写真のほか、人々から提供された写真やインタビューを素材とした制作により、デジタル・メディアやインターネットを介して行われるコミュニケーションや記憶のあり方を問い直す。近年の主な展覧会に、『2023 年コレクション展 I 虚実のあわい』兵庫県立美術館(兵庫 /2023)、『特別展 境界をこえる』徳島県立近代美術館(徳島 /2023)、『M+ at Night: Seen and Unseen』M+(香港 /2023)、『個展「君はいつだって世界の入り口を探していた」』クリエイティブセンター大阪(大阪 /2022)、『テールズアウト』大阪中之島美術館(大阪 /2022)、『デザインスコープ - のぞくふしぎ きづくふしぎ』富山県美術館(富山 /2022) 他多数。

中村史子 / 大阪中之島美術館主任学芸員

大阪中之島美術館学芸員。大阪中之島美術館にて『Osaka Directory 7 Supported by RICHARD MILLE 小松千倫』(2024)を企画、担当。また、2007 年～ 2023 年まで愛知県美術館学芸員として『放課後のほらっぱ』(2009)、『魔術 / 美術』(2012)、『これからの写真』(2014)、『生誕 120 年 安井仲治』(2023)等を企画、担当。また、あいちトリエンナーレにアシスタントキュレーターとして関わり、『国際芸術祭あいち 2022』(2022)のキュレーターを務める。雑誌や書籍等への寄稿多数。

野原万里絵 / 画家 ※ A-Lab Exhibition Vol.11 個展「□△も積もれば○となる」(2017) 出展作家

絵画の制作過程に焦点を当て、線や面を描くための定規や型紙を自作したり、多数のドローイングを起点とした絵画を描く。近年は、ワークショップを日本各地で開催し、協働制作による作品も発表。他者と自身を行き来しながら制作することで、絵画の新たな可能性を模索している。近年の主な展覧会に、『art resonance vol.01 「時代の解凍」』芦屋市立美術館(兵庫 /2023)、『VOCA 展 2022 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—』上野の森美術館(東京 /2022)、『大阪府 20 世紀美術コレクション展「彼我の絵鑑」』大阪府立江之子島文化芸術創造センター(大阪 /2021)、『個展「埋没する形象、組み変わる景色」』国際芸術センター青森(青森 /2020) 他多数。

---

関連イベント

## トークイベント

日時：2025 年 10 月 25 日（土）午後 2 時～午後 4 時

選考員の林勇氣氏（映像作家）、中村史子氏（大阪中之島美術館主任学芸員）、野原万里絵氏（画家）を迎え、出展作家 5 名とのトークイベントを開催。  
定員先着 20 人。

### 【トークイベントに参加申込する場合】

※関連イベントは参加無料です。

申込みはメールで A-LAB へ。イベント当日は会場（A-LAB）受付までお越しください。  
お申し込みの際は、下記メールアドレスまでイベント名・氏名・電話番号・人数を明記ください。

A-LAB メールアドレス

**amalove.a.lab@gmail.com**

---

広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ（※ 8 ～ 11 ページ参照）をプレス掲載用にご用意しております。下記の使用条件をご了承の上、A-LAB までお申し込みください。

使用条件：

- ・広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを表示ください。
  - ・トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
  - ・アーカイブのため、後日掲載紙、URL などをお送りください。
- 以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

---

問い合わせ先

A-LAB（午前 10 時～午後 6 時 \* 火曜日休館）

担当：田野、八木

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

尼崎市文化振興課（平日：午前 8 時 45 分～午後 5 時 30 分）

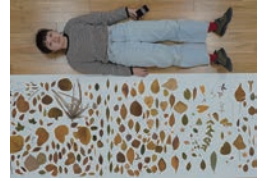
担当：田中、原田

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

---

作家略歴

■岡田 真由美（おかだ まゆみ）



東京都出身

2022 年 金沢美術工芸大学美術工芸学部美術科彫刻専攻 卒業

2025 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻彫刻細目 修士課程 修了

【受賞歴】

2021 年「KANABI クリエイティブ賞 2021」学長賞

【主な展覧会】

2020 年「真夜中の楽園で」、アートベース石引、石川

2022 年「金沢美術工芸大学 卒業・修了制作展 2021」、金沢 21 世紀美術館市民ギャラリー B、石川

2022 年「金沢美術工芸大学 卒業・修了制作買い上げセレクション 2022」、金沢美術工芸大学美術工芸研究所ギャラリー、石川

2022 年「育波芸術祭」、淡路島金生丸倉庫、兵庫

2023 年「あつめやさん」、下京いきいき市民活動センター、京都

2023 年「リロケーションまで引っ越し・ボウルの中のアイス」、下京いきいき市民活動センター、京都

2024 年「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」、六甲天覧台、兵庫

2024 年「・風 てん - ぴー」、ぴゅーギャラリー、京都

2025 年「記憶のつづき」、尼崎市開明庁舎、兵庫

2025 年 京都芸術センター開設25周年記念展「そのへんにあるもの」、京都芸術センター、京都

【制作ステートメント】

あつめるという行為から、この世界に存在しているものたちの消失という状態に対して意識を向けている。あつめたものを分類、集約、整理、複製、分有を経て再定義し、その時の、ある“消失”という状態の一時停止、あるいは脱却・延長によって起こる、ものに対する認識や関係性の変様を作品や活動において再現しようとしている。

■岡留 優（おかどめ ゆう）



京都府出身

2022 年 京都市立芸術大学美術学部美術科構想設計専攻 卒業

2025 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻構想設計 修士課程 修了

【主な展覧会】

2022 年「scrap and ...」、男木島名物倉庫『あいきえん』、香川

2022 年「軸展(仮)」、アサノヤブックス、大阪

2022 年「藤井寺芸術作品展」、藤井寺市立生涯学習センター アイセルシュラホール、大阪

2022 年「相原中央の公園芸術展 空の下のUMA」、相原中央公園、東京

2022 年「The Store」、NU 茶屋町、大阪

2023 年「トルネード乾燥」、デラハジリ、大阪

## 作家略歴

2023 年「リロケーションまで引っ越し・ボウルの中のアイス」、下京いきいき市民活動センター、京都  
 2023 年「京都駅ビル芸術祭 2023」、京都駅ビル、京都  
 2024 年「無料セミナー」、galerie16、京都  
 2024 年「2023 年度京都市立芸術大学作品展」、京都市立芸術大学、京都  
 2024 年「F 地」、京都市立芸術大学、京都  
 2024 年「聞く／聴く：探究のふるまい」、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、京都  
 2024 年「京都コンサートホールに響く音楽」、京都市営地下鉄北山駅 常設展示（約 1 年間）、京都  
 2024 年「#WINTER 国際的非暴力展 2024」、京都市立芸術大学、京都  
 2024 年「ツカノマ」、パティオ北白川、京都  
 2025 年「2024 年度京都市立芸術大学作品展」、京都市立芸術大学、京都  
 2025 年「国際的非暴力展 #SUMMER 2025」、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、京都  
 2025 年「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」、兵庫県立六甲山ビジターセンター（記念碑台）、兵庫

### 【制作ステートメント】

社会システムや慣習、日常的なルーティーンの中の不具合やミス（システムエラー、ヒューマンエラー）と、それに対して訂正や補完、補足することを主なテーマに表現を行う。準備不足、一発撮り、アドリブなどアクシデントが起こりやすい状況設定を用いて解説を行うパフォーマンスの他、映像、立体、インスタレーションなど様々な形式で作品を発表している。

## ■橋本 唯瑤（はしもと いよ）

大阪府出身

2025 年 京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻 卒業

現在、同大学大学院修士課程美術研究科美術専攻油画 修士課程 在籍中



### 【受賞歴】

2025 年「第 43 回上野の森美術館大賞展」優秀賞

### 【主な展覧会】

2025 年「梅田小品展 2025」芝田町画廊、大阪

2025 年「2024 年度京都市立芸術大学作品展」京都市立芸術大学、京都

### 【制作ステートメント】

「ゆるい緊張感」をテーマに、油絵を制作している。私は生活する中で見たものに対して、何か引っかかる、数秒目でなぞってしまうような感覚を持つことがある。例えば型抜きされたクッキー生地、蓋が少し開いている絆創膏の箱、醤油のかかった豆腐。その物の色、質感、形などが改めて見たときに新鮮で、その感覚を「ゆるい緊張感」として絵に描いている。

作家略歴

■橋本 梨生（はしもと りお）



滋賀県出身

2025 年 京都市立芸術大学大学院工芸専攻漆工 修士課程 修了

【受賞歴】

2021 年 第 42 期国際滝富士美術賞 優秀賞

2021 年 京都市立芸術大学作品展 平館賞

2022 年 京都市立芸術大学作品展 奨励賞

2025 年 京都市立芸術大学作品展 同窓会賞

【主な展覧会】

2021 年「わたしのポラリス」、GALLERY Ann、京都

2022 年「雷 擬獣化展」、Picaresque Art Gallery、東京

2023 年「うるしなないろマーケット」、近鉄百貨店草津店、滋賀

【制作ステートメント】

私は「オブジェクトアートの視点から生まれる漆芸表現」をテーマに、漆を使った美術作品を制作している。

プロダクトとしての漆工芸品の制作過程では、支持体の形を損ねることなく、漆を均一に塗る「塗り」と均一に研磨する「研ぎ」の工程を反復することが求められる。凹凸が排除されたフラットな塗面を作ることは、長い歴史と職人の技術によって生み出された、日本の漆芸という文化特有の美意識であると言える。

私は、日本の漆工芸の中で培われた美の基準を「秩序」、そこから外れた要素を「秩序から反するもの＝排除すべきもの」と仮定する。それらを 1 つの作品に共存させることによって漆工芸を、人間の共感や拒絶の境界を探る手段として応用する。

この試みは、メアリ・ダグラス（1921-2007）やヴィクター・ターナー（1920-1983）によって示唆される「境界的存在」を意図的に生み出す。一般的に対称とされる美醜の感覚が共存し、分類できない曖昧な状態になった時、鑑賞者はより自由で主体的に作品を吟味することが可能になると考えている。私はこの実践を継続することで、漆工芸の価値だけではなく、日常に潜む常態化した文化的、社会的価値の再考をしていきたい。

---

作家略歴

■ 寇 薇佳（こう びか）



中国出身

2025 年 京都精華大学大学院芸術研究科芸術専攻映像領域 博士前期課程 修了

【受賞歴】

2021 年 National College Digital Art&Design Awards 全国最優秀賞・北京最優秀賞

2021 年 The Forth International Art&Design Exhibition 入選

2024 年 ARTAOTA2024 入選

【主な展覧会】

2024 年「プロジェクト企画演習 2023 成果展」、ギャラリー Terra-S、京都

2024 年「OPEN THE [KAN]」、ギャラリー Terra-S、京都

2024 年「ARTAOTA2024」、コワーケーションスペース九条湯、京都

2024 年「CAMERA OBSCURA 音と映像の遊戯室」、広島市東区民文化センター、広島

2024 年「Media Technology Live 2024 in SEIKA」、京都精華大学、京都

【制作ステートメント】

光が人間の情緒や生体リズムに与える影響を起点に、環境との相互作用やテクノロジーが未来にもたらす可能性を探究している。アート、テクノロジー、生物学の領域を横断し、3D プリントや CG 映像、インタラクティブ技術を用いたメディアアートを展開。

参考図版



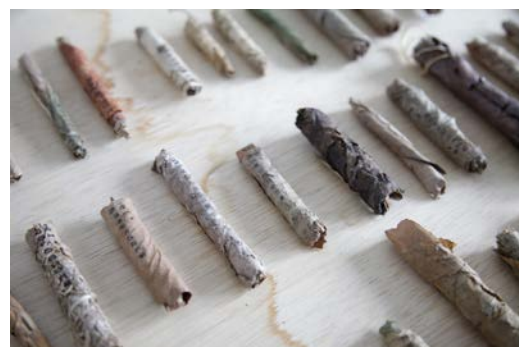
1



2



3



4



5



6

参考図版



7



8



9



10



11



12

参考図版



13



14



15



16



17



18

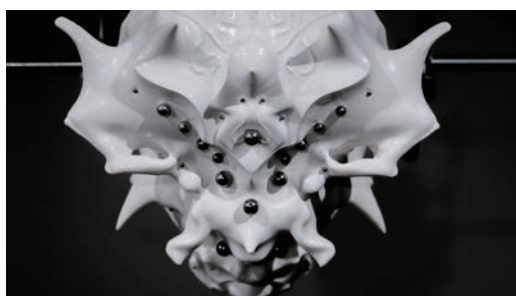
参考図版



19



20



21



22



23



24

## 画像情報

作者名 | 『作品タイトル』 | 制作年

- 1-2. 岡田真由美 | 『この星の欠片、海の蓋をあけること』 | 2021      撮影：池田ひらく
3. 岡田真由美 | 『おじゃまします、あつめや山です。』 | 2024      撮影：高嶋清俊
4. 岡田真由美 | 『この星の欠片、煙の先に』 | 2025      撮影：山田毅
5. 岡田真由美 | 『おひる新聞』 | 2025
6. 岡田真由美 | 『おひる新聞』 | 2025      撮影：守屋友樹
7. 岡留優 | 『サードパーティ』 | 2025
8. 岡留優 | 『無料セミナー』 | 2024
9. 岡留優 | 『自分を装う』 | 2024
10. 岡留優 | 『MT( マニュアル・トランスミッション )』 | 2024
11. 岡留優 | 『キャリアプランニング』 | 2024
12. 橋本唯瑤 | 『マスキングテープ』 | 2025
13. 橋本唯瑤 | 『なし』 | 2024
14. 橋本唯瑤 | 『マーガリン』 | 2024
15. 橋本唯瑤 | 『もも』 | 2024
16. 橋本唯瑤 | 『フルーツグラノーラ』 | 2023
- 17-18. 橋本梨生 | 『たとえ交わらなくても、』 | 2025
19. 寇 薇佳 | 『Meta Symbiosis-1』 | 2025
20. 寇 薇佳 | 『Meta Symbiosis-2』 | 2025
21. 寇 薇佳 | 『Meta Symbiosis』 | 2024
22. 寇 薇佳 | 『Palpable Present Intimacy』 | 2023
23. 寇 薇佳 | 『Resonance of a micro moment』 | 2024
24. 寇 薇佳 | 『After The Death』 | 2022